



在学中は大学紛争の嵐が吹き荒れ、授業がない状態が続いていました。当時、ベストセラーになっていた小田実さんの世界旅行記「何でも見てやろう」に刺激を受け、4年生の時に放浪の旅に出ました。

リュックサック一つでマレーシアやインド、パキスタン、アフガニスタンなど10か国・地域を10か月かけて一人旅。途中、何度も体調を崩し、アジアの医療の実情を身をもって体験しました。インドでは

すがなみ
菅波茂さん (1972年医学部卒)

「AMDA」
グループ代表

「国際貢献を目指す後輩たちを応援したい」と話す菅波さん(岡山市のAMDA本部で)



1946年、広島県福山市生まれ。77年に大学院医学研究科を修了。AMDAを設立し、世界各地の紛争地域や被災地で医療支援活動を展開。これまで国連ブトロス・ガリ賞、読売国際協力賞などを受賞している。

恩師あつての国際医療

など必要書類すべてに判を押してくれました。

お陰で1972年、「第1次クワイ河医学踏査隊」が実現。84年のAMDA設立につながりました。今では世界29か国・地域にまたがる国際医療ネットワークになり、2006年に国連経済社会理事会で政策提言できる「総合協議資格」を得ました。谷口先生の理解がなければ、今日のAMDAはなかったでしょう。

岡山大とは05年8月、学生の海外派遣などに協力する提携を結びました。後輩の皆さんには、多くの人々と出会い、世界に羽ばたいてほしいですね。

ハンセン病専門の施設に3か月間滞在し、医療の国際協力の必要性を実感しました。

帰国後、仲間を募ってタイとミャンマーの国境付近で住民の衛生調査を行う計画を立

てましたが、教授会の許可が下りません。困った末、当時学長だった谷口澄夫先生に直訴しました。先生は私の話にじ

っくり耳を傾けた末、「わしの責任で許可しよう」と、推薦状